

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第273号  
2021年7月



一般社団法人  
大学女性協会



2021年4月28日 会長以下、総会に向けて議案書（写真右）・議決権行使書等の発送準備



## 特集 第10回定時会員総会の報告

加納会長挨拶、80周年記念募金パトリシア……	2	調査・研究委員会報告……………	9
定時会員総会について、議事抄録、……	3	CIR、国際ネットワーク委員会、……	10
オンライン支部長会		事業担当理事より	
支部長会より、支部間協力のご紹介……………	4~5	CSW65報告、訃報・中村道子元会長 ……	11
第23回守田科学研究奨励賞贈呈式……………	6	お知らせ～全国セミナー、寄付者ご芳名、……	12
第23回守田科学研究奨励賞受賞者研究概要……	7	コンサート、新入会員、国内奨学生募集、	
国際奨学委員会報告……………	8	理事会から	

# 奨学金事業と大学女性協会

会長 加納孝代



Covid-19 (Coronavirus Disease 2019の略称) の拡大により、世界的規模で前代未聞の大きな変化や変動が起きました。この先もいつまで続くのか、どのような形で収束するのか分かっておらず、いまだ過去形では語れません。亡くなった方々、悲しむ遺族、治療に日夜奮闘中の医療従事者、それを支える多く

の職種の人々、顧客や需要の激減で大打撃を受けつつある人々はその直接的被害者です。それだけでも膨大な数に上るでしょうに、そうした人々から庇護され、ケアされていた弱い者、小さな者たちが後回しにされ、放り出され、場合によっては迫害までされている実態が世界各地で起こっていると聞くと、この出来事の深刻さが想像を超えるものであることが窺われます。

大学女性協会でも様々な影響を受けましたが、中でも国際奨学生の2年にわたっての募集停止はこのパンデミック(世界的な感染症の流行)を象徴するものとなりました。それにつけてもこの事態は大学女性協会における奨学金事業の重要性にあらためて思いを致す機会をも与えてくれました。

私たちの団体は一般社団法人ですが、その事業として公益を目的とする支出を一定程度確実に実施してゆくことが義務付けられております。但し今回のCovid-19のように大規模の社会現象が起こった中ではそれなりの配慮を国(私たちの場合は具体的には内閣府)がするでしょうからその指示に沿って、できる事業を行い、できないものはできないと、正確な報告をしてゆけばよいはずで、その点は別に心配しておりません。

ただこれまで毎年ルーティンのように行ってきた奨学金事業を、はっきりと「公益目的」とであると認識できたことは有益でした。まずは「公益」の意味ですが、公益事業とは簡単にいえば「世のため、人のため」になる事業と

言ってもよいでしょう。それは「より良い社会を作る」というフレーズとも一致します。それでもまだ漠然としていますが、そこに一つの明るい手がかりが現れてくれました。それがSDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) です。国連が2015年に打ち出したもので、細かな達成基準は169にも及んでいます。それらをくくる17の目標は、たとえば「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」などと、とてもわかりやすいものばかりです。政治体制も歴史も文化も宗教も主義主張も民族も言葉も異なる、200近くの大小さまざまな国が国際連合という公の場で合意したのだけあって、さすがにどこから見ても妥当な目標が出揃っています。「世のため、人のため」、あるいは「よい社会」について、恰好なモデルを示してくれています。

私たちは自分たち自身もそのために努力しますが、一方で、そういうことを託すために次の世代を育てる奨学金事業の選考に、これらSDGsが謳っている目標がよいヒントを提供してくれると思います。それが奨学金事業の真の存在意義を明らかにしてくれる、と今回気付かされました。

ささやかな額であってもそういう思いを込めて大学女性協会から手渡す奨学金が20年後、30年後に、その人の中に同じ願いを起こさせてほしい。そう思うとこの事業を、できる限り継続してゆきたいとの思いが一層強まります。

この春スタートした「80周年記念募金パトリシア」も、それにつながるものです。先輩たちが奨学金事業を重要だと考えた先見の明を今回あらためて理解できました。そのことを喜びつつ、皆様にお伝えしたいと思った次第です。

## 2021年度 理事・監事の異動

退任	理事	丸山 若重
	監事	中山 正子
新任	理事	中山 正子
	監事	縄田 眞紀子

## 80周年記念募金パトリシア ～ご寄付のお礼

会長 加納孝代

今年度に入り、「80周年記念募金パトリシア」をスタートさせました。「80周年記念募金パトリシア」とは、1946年に結成された大学女性協会にとってあと5年で創立80年の節目である2026年がやってくることに、本部事務所のある東京都新宿区左門町のマンション名が「パトリシア信濃町テラス」(写真)であるところからの命名でした。

約700名の会員に加えて賛助会員の皆様にも宛ててお願い状を発送したのは4月末日でしたが、なんと5月6日から

続々とご寄付が届き始めました。6日に8件、7日に15件、8日は土曜日だったので2件でしたが、月曜日の10日は13件、11日も13件というペースで、目を見張るほどでした。そして、今年度の目標としていたのは100万円でしたが、6月24日時点で102万円にまで達しました。この波はその後にもまだ続いております。ご寄付くださった方は6月24日時点で100名になります。お名前を12頁に掲げさせて頂きました。理事会一同心よりお礼を申し上げます。



## 2021年定時会員総会について

昨年来の新型コロナウイルスの拡大が収まらず、2021年定時会員総会は、2020年度第5回理事会で予定した岡山での開催は難しいと判断し、昨年と同様に東京で、理事数人の出席と議決権行使書による総会とすることと決定した。

4月28日全正会員へ、議案書、議決権行使書を発送。

5月23日JAUW本部事務所にて、出席理事・監事5名、議決権行使書による出席462名、合計467名をもって、総会を開催した。

定款変更の「総正会員の2/3以上の賛成」を満たしており、第2号議案から第5号議案まで、承認可決された。第1号議案については、会計報告内容に記載ミスが見つかり、審議未了とし、改めて継続会を開きそこで審議することとした。

定時会員総会時に開かれる支部長会は、5月23日午後、Zoomによるオンラインの形で開催した。支部長20名、理事・監事12名、オブザーバー2名計34名の出席で行われた。  
総務担当副会長 森川淳子

## 第10回定時会員総会議事抄録

日 時：2021年5月23日11：00～12：00

場 所：(一社) 大学女性協会本部会議室（東京都新宿区）

1. 総会成立確認：丸山総務理事より2021年5月23日午前11時現在の出席者5名、議決権行使書による出席者462名を報告。正会員687名の過半数以上の出席により、総会の成立を確認。

2. 開会の辞：加納会長より開会の挨拶の後、逝去会員13名の冥福を祈って黙祷。

3. 議長選出：定款に基づき加納孝代会長が議長となる。

4. 書記選出：丸山若重理事を選出。

5. 議事録署名人選出：城倉純子理事と森川淳子理事を選出

6. 議事：

第1号議案：会計報告に記載ミスがあり、審議未了とし、6月21日継続会を開き改めて審議することとした。

第2号議案：IFUWのGWIへの名称変更に伴い、定款の一部変更について、森川副会長より議案書に基づき提案がなされた後議長が同議案を議場に諮り、挙手3名、議決権行使書の賛成461名、計464名の賛成により定款に定める総正会員の2/3(458名)以上があり、異議なく承認可決された。

第3号議案：「入会金・会費規程」の一部変更について森川副会長より議案書に基づき提案がなされたあと、議長が同議案を議場に諮り、挙手3名、議決権行使書の賛成461名、計464名の賛成により承認可決された。

第4号議案：理事1名選任の件について、森川副会長より議案書に基づき提案理由、および役員選考委員会西村委員長から理事候補者推薦についての説明の後、議長が同議案を議場に諮り、挙手3名、議決権行使書の賛成461名、計465名の賛成により承認可決された。なお被選任者は就任を承諾した。

第5号議案：監事1名選任の件について、森川副会長より議案書に基づき提案理由、および役員選考委員会西村委員長から理事候補者推薦についての説明の後、議長が同議案を議場に諮り、挙手3名、議決権行使書の賛成461名、計464名の賛成により承認可決された。なお被選任者は就任を承諾した。

7. 報告事項：

2020年度事業報告と2021年度事業計画について、森川副会長、丸山理事が説明した。公益目的支出計画実施報告、監査報告、および2021年予算については、第1号議案が審議未了としたことに伴い、継続会で報告をすることとした。

8. 2021年度全国セミナーについて

日 時：11月14日（日）開催方式は対面とオンライン併用  
10：00～16：30

会 場：エッサム神田ホール1号館401大会議室

テーマ：「教育・ジェンダー・共生—コロナ後の共生社会を支える教育—」

9. 「80周年記念募金パトリシア」について

10. ホームページ（HP）のリニューアルについて

11. その他

2022年全国総会並びに第11回定時会員総会は岡山で開催する。以上をもって第10回定時会員総会は一時閉会した。

継続会抄録

日 時：2021年6月21日11：00～12：00

場 所：(一社) 大学女性協会本部会議室（東京都新宿区）

1. 継続会成立確認：森川副会長より2021年6月21日午前11時現在の出席者4名、議決権行使書による出席者423名を報告。正会員683名の過半数以上の出席により、継続会は成立、審議未了の案件を審議することを確認。

2. 開会の辞：加納会長より開会の挨拶。

3. 議長選出：定款に基づき加納孝代会長が議長となる。

4. 書記選出：城倉副会長を選出。

5. 議事録署名人選出：城倉純子理事と森川淳子理事を選出

6. 議事：

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：森川副会長より議案書に基づき貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明がなされた。続いて中山監事より業務及び会計監査の報告がなされた後、議長が同議案を議場に諮り、挙手2名、議決権行使書422名の賛成、計424名の賛成により承認可決された。その後報告事項2及び報告事項3についての説明がなされた。

以上をもって継続会を閉会し、第10回定時会員総会は終了した。

## オンライン全国支部長会2021

今年度の全国定時会員総会は新型コロナウイルス感染症対策で対面式開催が見送られ、支部長会は、オンラインを利用し行うこととなりました。

時間を2時間と設定し、大学女性協会の組織について新支部長になられた方々にはわかりやすく、継続支部長には再確認していただけることと、会員同士が親しみ繋がるきっかけとなる支部長会になるよう考えました。そこで、各理事から理事の仕事と担当委員会の説明と参加者からは30秒で自分の趣味を紹介するというプログラムにしました。皆様の個性が光っていました。次回、直接お会いすることが楽しみです。

準備にあたり、会長のアドバイスで、事前にお話しただくことを資料で配布し、前日にはパソコン操作確認のため嶋田理事が付き合ってくださいました。長谷川理事からは当日の議事録を含め欠席支部への全資料の郵送など、全面的な理事会のご支援があり、当日は皆様の寛容さに助けられ無事終了しましたこと、感謝いたします。

各支部でその地域にあった活動が行われ、国内の他団体や、GWIのメンバーとして国際機関とも協働する私たちの活動は世界規模で大きいものです。その大学女性協会を輝かせ発展させていくことを切に希望する一人として、「全ての女性が輝く明日のために」を合言葉として、皆様と共に歩むことができましたら幸いです。

支部担当理事 山下いづみ

# 支部長会2021より

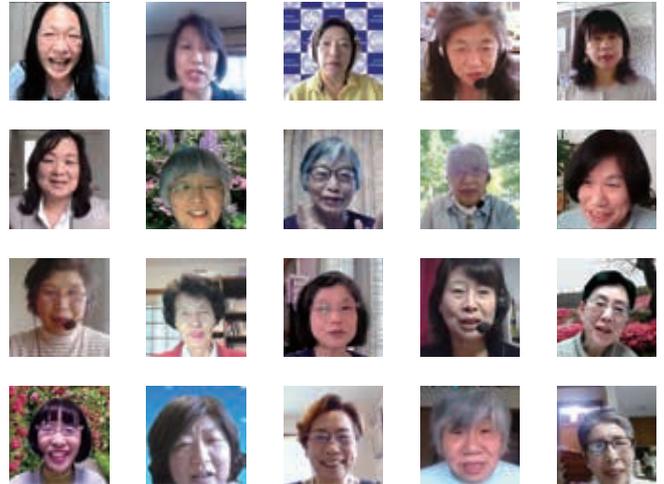
2021年5月23日 (13:30-15:30)  
Zoomによるオンライン会議 参加者34名

全国の都道府県から34名の参加者が、オンラインを通して会議を行いました。トラブルもなく非常にスムーズに進行しました。これはZoomに対して支部長の皆様が多くのご努力を積み重ねられたことの賜と感じました。また、支部長会では多くの発言者による報告がありましたが、予定時間通りに進行できたのは、山下支部担当理事の巧みな司会の力によるものでした。会の議事は以下のとおりです。

司会：支部担当理事 山下いづみ

記録：支部担当理事 長谷川瑞穂

1. 加納会長挨拶
2. 支部長の自己紹介
3. 理事・監事の自己紹介と担当業務の説明
4. HP担当の梅田和子委員によるホームページの説明
5. 質疑応答（この一部は以下のQ&Aでご紹介します）
6. 支部担当理事よりのお願い
7. 森川副会長の閉会の辞



## Q&A 支部長会の質疑応答の一部をご紹介します

**Q1.** 会長は冒頭のご挨拶の中で、「世のため、人のため」という言葉を繰り返しながら、先輩が行ってきた事業を引き継いでいこう、と仰いました。どの事業を継続すべきで、どの事業を中止すべきか、というお考えはありますか。

**A.** どれを継続、どれを中止、という発想ではなく、優先順位をつける、という考えかたに立ちたいと思います。その場合、自分たちのためというより「世のため、人のため」になるか、ということの判断の指針とすべきであると思います。そう覚悟を決めると、実は優先順位はおのずから決まってゆくような気がします。  
(会長 加納孝代)

**Q2.** 「パトリシア募金」とは80周年を見据えて、ということですか。

**A.** はい、そうです。70周年がついこの間終わったばかりではありますが、「時は止まらない、だから私たちも歩みを止めてはならない」というように考えています。少しずつ無理のないやり方で、続けてさえいけば、必ず形になるのですから。  
(会長 加納孝代)

**Q3.** 支部が本部委員会の活動を知り、関わるにはどうすればいいですか。

**A.** 私も地方支部（長崎）に4年いたことがあります。その時、地方から見ると東京はとても遠く感じられることを実感しました。他方、東京（本部）からは、地方はすぐそばに存在しているように感じられています。こうした認識のギャップがあり得るのですから、それを乗り越える工夫が必要です。本部と支部の人たちが一緒になれるような対面の行事として、総会の時の懇親会や研修旅行などは有益だったように思います。それを参考にしつつ考えてゆきましょう。  
(会長 加納孝代)

**Q4.** 全国セミナーと「コロナ禍における現況調査第2回」について担当理事からお話してください。

**A.** 全国セミナーを11月14日に、対面とオンラインの併用で開催、午後に「委員会と支部からの報告発表」のコーナーを設け、今回のテーマに沿った内容で、報告発表をおこなって頂ける支部を募集中です。発表時間は15分程度になります。オンライン併用ですので、遠方の支部の方々にも是非ご参加をお願いしたいと思います。申込の締め切りは、6月中となっております。

また、コロナ禍現況調査ではご協力を頂きましてありがとうございました。第2回の調査を8月ごろに依頼し、回収締め切りを9月末日に設定、1か月程度でまとめ完成させたいと予定しております。どうぞよろしくお願いたします。  
(副会長 城倉純子)

**Q5.** 支部の奨学事業やその他の歴史的資料なども、HPのアーカイブに収容できるのですか。どういう手順ですか。

**A.** 現在、アーカイブとして、会報は1949年6月18日発行の1号から全て、シンポジウム・セミナー報告書は1974年発行の「職業と教育」から、現在に至るまで（1981年～2004年のセミナーは、文部省／文部科学省による国庫補助事業）、その他、本部からの刊行物、委員会報告書、支部発行の記念誌等を公開しています。

支部発行の会報（たとえば東京支部の「ともしび」、仙台支部の「けやき」…）はそれぞれの支部活動にバックナンバーとして保管していますが、最近のもののみですので、過去のまだ残っている会報等があれば、十分な容量を確保していますので、ファイルとして、お送りいただきたいと思います。

支部の会報だけではなく、JAUWに関する資料をお持ちの方は、どうぞHPをご利用ください。

ファイルがなく、紙の資料の場合は、PDFファイルに変換し、お送りください。

アーカイブとして保存したい諸々の資料は、毎月の更新依頼とは別に対応しますのでご相談ください。  
（ホームページ担当 梅田和子委員）

## 支部間協力のご紹介

第10回定時総会議案書の事業報告に、支部間で協力して活動された様子がいくつか記載されています。その一つをご紹介します。

2020年の春、静岡支部は新型コロナウイルスの感染拡大で懸念されるドメスティックバイオレンス（DV）や虐待被害への迅速な対応を求める要望書を大学女性協会、当時の鷺見会長、そして支部長名で作成し、支部から自治体へ提出する提案をされました。具体的には、暴力被害者の相談窓口等の広報や特別定額給付金を被害者の世帯主住民票住所でなく避難先で受け取る策の周知です。これに応じていくつかの支部がそれぞれの自治体に要望書を送りました。

秋田市長に対し要望書を送った秋田支部には、市長名で回答（図・右）が届きました。これは支部間協力の成果であるとともに、同支部の地元における日頃の着実な活動の証ともいえるのではないのでしょうか。

## 秋田市長から秋田支部への回答

令2広一要第13号  
令和2年6月9日

一般社団法人 大学女性協会  
会長 鷺見 八重子 様  
秋田支部長 橋本 澄子 様

秋田市長 穂積 志



新型コロナウイルス感染症拡大防止策にともないドメスティック・バイオレンス（DV）や虐待被害への対応を求める要望書について（回答）

日頃から本市行政に対してご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。  
令和2年5月11日付けで提出のありました標記の件について、下記のとおり回答いたします。

記

1 新型コロナウイルス感染症対策と連動し、貴ホームページ欄、貴自治体広報紙、SNSなどに、内閣府が4月末から始めた相談窓口「DV相談+」の情報を掲載し、他の女性への暴力被害相談窓口や、支援センターの連絡先を掲載すること。

本市では、ドメスティック・バイオレンス等の被害者からの申出により、加害者から住民票等の写しの請求があった場合に不当な請求として拒むなど、被害者の住所の探索を防ぐ措置を実施し、女性相談所等相談機関、関係課所室および関係市区町村と連携を図りながら、被害者の保護に努めております。

（市民課）

新型コロナウイルス感染症対策については、ホームページや広報紙に掲載し、DV被害者女性等への対応を行っております。

（新型コロナウイルス対策室）

児童虐待やDVの相談先として、本市子ども未来センターに「子ども家庭相談」、「女性の悩み相談」があります。

「DV相談+」については、「DV相談ナビ」とともに、ホームページやSNS等を活用して周知してまいります。

（子ども未来センター）

- 1 -

2 特別定額給付金は、世帯主の住民票住所地へ申請書類が送られますが、DV被害者女性等については所定の申出書を提出すれば、別居中の夫のもとに妻や子どもの分を振り込まないように手続きができます。限られた日程しかありませんので、そのことを至急周知し、手続きを迅速に受け付けるようお願いいたします。

配偶者からの暴力を理由に本市に避難している方への特別定額給付金については、所定の手続きをすることにより給付が受けられることを、ホームページや広報紙により周知しているところです。

併せて手続きに当たっては、秋田県女性相談所や本市子ども未来センターなどの相談機関と連携し、申出書への迅速な対応に努めてまいります。

（新型コロナウイルス対策室）

担当 秋田市山王一丁目1番1号  
秋田市企画財政部広報広聴課  
広聴担当  
直通 018-888-5471  
FAX 018-888-5472

- 2 -

# 第23回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式

科学研究奨励委員会委員長 菅原 洋子

第23回守田科学研究奨励賞は、進化生物学分野の石川麻乃博士と天文学分野の藤井通子博士が受賞された。COVID-19パンデミックが収束せず、賞贈呈式と受賞講演は6月6日（日）にWeb開催された。賞状（楯）と副賞は、受賞者にお送りした。また、昨年は賞贈呈式と受賞講演を中止したことから、第22回受賞者の受賞講演を併せて行った。

第23回受賞者の石川麻乃博士は、北海道大学理学部生物学科を卒業後、同大学院環境科学院修士、同博士後期課程へと進み、2011年に博士（環境科学）を取得された。進化生物学のモデル生物であるトゲウオを研究材料として、野生生物の環境への適応と進化に関する研究を進め、海水域に生息する魚の淡水域への進出を可能にした原因の一つとして、淡水の餌からは摂取しにくい高度不飽和脂肪酸を作るのに必要な *Fads2* 遺伝子の数が増加していることを明らかにした。この発見は2019年に *Science* 誌に掲載され、高い評価を受けている。2020年からは日本学術会議の連携会員も務め、今後のこの分野での活躍が期待される。

藤井通子博士は、東京大学理学部天文学科を卒業後、同大学大学院理学系研究科修士課程、博士課程へ進み、2010年に博士（理学）を取得された。宇宙は人類が直接観測不能な長い時間スケールで進行しているため、恒星系の進化の研究には数値シミュレーションによる理論的研究手法が用いられる。藤井博士は既存のアルゴリズムを発展させ、数百億の星の集まりである銀河と、数千から数百万の星の集まりである星団という密度や時間スケールが異なる二つの系を、同じシミュレーションで同時に精度良く計算する手法を開発した。円盤銀河の渦状腕の力学、および、高速度で銀河内を移動する暴走星の起源に関する研究では、長年の論争に決着をつける重要な成果を上げている。国際天文連合の委員を務めるなど国内外において若手研究者のリーダーとして今後のさらなる活躍が期待される。

加納孝代会長は挨拶の中で、大学女性協会の成り立ちと本奨励賞設立の経緯を紹介され、また、日本における女性自然科学者活躍への期待を述べられた。Zoom画面を通して賞状盾の授与が行われ、引き続き、受賞講演となった。第23回受賞者の石川博士は、研究対象としているトゲウオの実物の提示と進化生物学の命題の説明から始めて、研究手法や研究の展開を具体的に講演された。藤井博士は、太陽系が属している天の川渦巻銀河を例として、宇宙進化のシミュレーションを可視化したムービーで示し、この分野の課題がどのように解決されたかを解説された。続いて第22回受賞者の受賞講演が行われた。小阪田博士の受賞課題は「新しい光化学・放射線化学特性を持ったナノ材料の創

製」であるが、光蛍光スイッチナノ粒子、X線照射で光るナノ材料、二次元ポリマーを用いた光触媒の3テーマについて、新規ナノ材料開発の指針とその成果をわかりやすく講演された。星野博士は、「がんの転移先を決めるナノサイズメッセンジャー」という演題で、エクソソームという小胞がどのようにしてがんの転移先の決定に寄与しているかを明らかにした研究経緯、さらにバイオマーカーとしての利用の可能性について示された。

4受賞講演に対して参加者から多くの質問が寄せられた。Web開催したことにより札幌支部から長崎支部まで全国からの参加が得られたことは幸いであった。

## 第24回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

**趣 旨：**本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

**対 象：**自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（2022年4月1日現在）の女性科学者を対象とします。

**授賞件数：**年2件以内。賞状および副賞50万円を贈呈します。

### 提出書類\*

1. 研究題目とその概要（A4判1頁～1.5頁程度）、今後の展望および抱負（A4判0.5頁程度）（全体でA4判2頁以内）
2. 推薦状（厳封）
3. 履歴書  
記載項目：氏名（ふりがな）、（英字表記）、国籍、生年月日（年齢）、現住所・電話、所属機関（住所、電話、FAX、e-mail）・職名、（連絡先に○）、専門分野、学歴（高校卒から）、学位、職歴、賞罰
4. 研究業績リスト（主要な論文は○を付記）  
記載項目：原著論文（査読付）、原著論文（査読なし）、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表（国際学会、国内学会（招待のみ））、競争的資金
5. 主要な論文5編以内の別刷り

\*返却いたしません。1. 3. 4. は各15部、2. は1通、5. 論文別刷り（コピーでも可）は3部提出のこと。

\*外封筒に「第24回 大学女性協会守田科学研究奨励賞応募書類」と明記のこと。

応募締切日：2021年11月15日（月）（必着）

選考結果の通知：2022年3月

書類送付先・連絡先：一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地 6-101

Tel：03-3358-2882 Fax：03-3358-2889

<https://www.jauw.org> e-mail:jauw@jauw.org

応募書類の発送時に、応募者名、所属、研究題目、連絡先、応募書類の発送日を明記したe-mailを、科学研究奨励委員会委員長 菅原洋子（e-mail:sugawara@scikitatsato-u.ac.jp）宛に御送付ください



左より、加納会長、第23回受賞者の石川博士、藤井博士、第22回受賞者の小阪田博士、星野博士

## 遺伝子から、野生生物の適応進化を理解する

東京大学大学院 新領域創成科学研究科  
准教授  
いしかわ あきの  
石川 麻乃

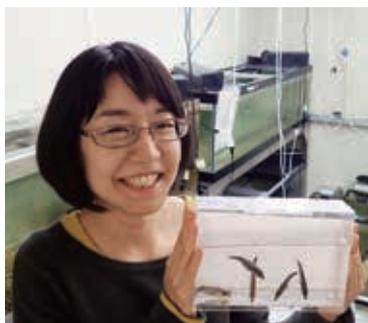


生物が自然界で見せる適応進化機構の理解は、私たちを取り巻く生物多様性の維持と保全に必要な不可欠である。中でも、生物がいつ、どこで生まれ、どのように成長して、繁殖し、死んでいくのかという生活様式は「生活史」と呼ばれ、各個体がどの程度多く子孫を残すことができるかに直結する。このため、生物はそれぞれ

の環境に適応する過程で、種や集団ごとに独自の生活史を持つよう進化してきた。このように生物が示す多様な生活史が、どのような遺伝的機構により進化してきたのかを理解することは、これらを保全していく上でも重要である。近年、次世代シーケンサーやゲノム編集技術などの発展により、単純な生活史を持つ実験生物だけでなく、複雑で魅力的な生活史を示す野生生物でも、その進化を引き起こす遺伝子の同定が可能になりつつある。私は、世界中の淡水域に進出し、独自の進化を遂げたトゲウオ科イトヨにこれらの最新技術を導入し、生活史の適応進化の分子遺伝機構を明らかにしてきた。

その一例が、海水魚が淡水域へ適応するために必要な鍵遺伝子の発見である。鍵となったのは、必須脂肪酸ドコサヘキサエン酸 (DHA) を作るのに必要な *Fads2* 遺伝子だった。DHAは、本来、海の餌に多く含まれるが、淡水の餌にはあまり含まれない。私の研究から、イトヨは *Fads2* 遺伝子の数を増やすことで、DHAの少ない淡水の餌でも生存し、淡水進出できるようになったことが分かった。*Fads2* 遺伝子は、他の幅広い種類の魚でも、海に棲む種に比べ、淡水域に棲む種で増えていたことから、これまで何度も起こってきた魚の海から淡水域への進出の鍵となる役割を果たしてきたと考えられる。この結果は、特定の遺伝子を調べることで、生物が新しい環境で生存できるか推測できることを示している。これは、新しい環境に定着しやすい生物種が引き起こす外来種の侵入という社会問題に対して、遺伝子レベルでのリスク評価を可能にする。また、本来とは異なる生息環境で魚を飼育する養殖分野などでも、各魚種の有用性の評価を遺伝子レベルで行うことが可能である。

現在は、適応進化をもたらす遺伝子の同定だけでなく、それらと生態系の相互作用や、それによって生じる進化動態のパターンを実験的に検証することで、複雑な生態系で生じる適応進化の偏りや方向性を予測・検証し、生物の多様化を促進・抑制する分子・生態機構の統合的な理解に貢献したいと考えている。



## スーパーコンピュータで挑む 銀河の大規模シミュレーション

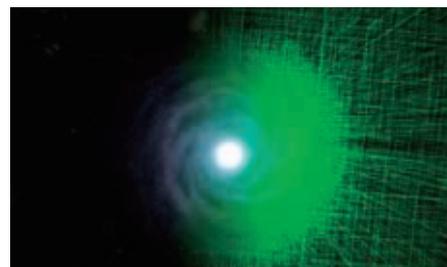
東京大学大学院理学系研究科  
准教授  
ふじい みちこ  
藤井 通子



私たちの住む「天の川銀河」は、1千億もの星と、それを取り巻くダークマターハローからできています。そして、100億年という長い年月をかけて現在の姿へと進化してきたと考えられています。夜空に浮かぶ銀河は、とても動いているようには見えませんが、それは銀河があまりに大きく、その運動も人間のタイムスケールよりはるかに長いためであり、シミュレーションで再現した銀河は、星一つ一つの運動が合わさってできる、銀河の渦巻状の腕（渦状腕）の複雑な運動を私たちに見せてくれます。

私は、N体シミュレーションと呼ばれる手法を用い、重力による星一つ一つの運動を数値的に解き、数多くの星が集まってできている天体（銀河や星団など、恒星系と呼ばれる）の進化の研究を行ってきました。シミュレーションは、人間が直接観測することのできない天体の運動や時間進化を詳細に見るための重要な手段です。天文学におけるシミュレーション研究は、コンピュータの発達と共に発展し続けてきました。例えば、80年代のシミュレーションの結果から示唆された「渦巻銀河（渦状腕を持つ銀河）の渦状腕は長期間維持されない」という問題は、私が行った最新のシミュレーションによって、「渦状腕が維持されなかったのは当時のシミュレーションの解像度の問題であり、実際の銀河では、渦状腕は自己抑制メカニズムによって宇宙年齢の間維持される」ことがわかりました。

しかしながら、最先端のスーパーコンピュータを使ったシミュレーションでも、実際の星一つ一つを再現できる天体は未だ限られており、宇宙が現在の姿に至るまでの進化過程はまだ多くの謎に満ちています。次の目標は、私たちの住む銀河「天の川銀河」を丸ごと再現することです。シミュレーション研究では、新しいスーパーコンピュータの性能を活かすことのできる新しい手法やそれを実装したシミュレーションコードの開発も重要な課題です。私はこれまでに、銀河の中にあるサブ構造である星団を計算しつつ、銀河全体の進化も計算できる新しい手法を開発してきました。このような手法により、スーパーコンピュータを用いた大規模シミュレーションを効率よく行うことができます。今後は、この手法を応用したシミュレーションを最新鋭のスーパーコンピュータ「富岳」で実行し、天の川銀河の進化過程の解明に挑んでいきます。



シミュレーションで形成した銀河と重力計算のために使用したグリッド（緑線）

# 国際奨学生からのメッセージ

## —日本での研究と帰国後の活動

コロナウイルスによるパンデミックが長期化するなか、国際奨学事業は、2020年度、2021年の募集停止を余儀なくされています。再び国際奨学生募集が開始できることを願い、これまでに大学女性協会奨学生として来日された方々に、日本滞在中の研究生活と帰国後の活動について、近況をお寄せ頂きました。  
(国際奨学委員長 香川せつ子)

### 国際奨学生の近況

奨学事業担当理事 岩村 道子

執筆を依頼する奨学生の人選にあたっては国籍、文系・理系などのバランスを考慮しました。まず、JAUWのHPの奨学金関連のページへの写真掲載許可を得た方の中から3名を選びました。ラムさん(インド)、ハズリニさん(マレーシア)、リンさん(香港)の顔をHPでご覧になった方もいらっしゃると思います。残る1名フーカさん(ウズベキスタン)は何度か近況報告メールでいただいていますので、執筆をお願いしました。

文系研究者のリンさん、フーカさんは帰国後研究を続行して学位(博士)を取得し、それぞれ母国の大学で教鞭をとられています。理系の二人も日本の研究室での指導、研鑽を糧としてさらに研究を発展されています。2019年度奨学生のラムさんは昨年3月末の帰国予定日頃にはインドが入国禁止となったためJAUWと信州大学からの滞在援助により6月まで研究を続行しました。それにより研究成果がまとまり最近一流の学術雑誌に論文が掲載されました。

国際奨学生がこの奨学金での研究成果をもとにして帰国後母国で活躍していることを、会員の皆様にご報告できることを大変嬉しく感じております。

### Dr. Dzinun Hazlini (マレーシア)



私は大学女性協会国際奨学金の助成を受けて、2018年10月1日から2019年3月31日まで名古屋工業大学の研究室に滞在しました。その間、市川洋教授のご指導のもと、マレーシアの主要産業の一つである染料合成の廃水に含まれるイオウ、銅、ヒ素、カドミウムなどの有毒化学物質の除去のための廃水濾過膜に二酸化チタンを組み入れる方法の検討をおこないました。二酸化チタンは光照射により汚染物質を分解することが可能になると予想されます。

2019年1月9日に名古屋の愛知県総合女性センターで研究の進捗状況について発表し、2019年2月9日にJAUW国際奨学生研究成果報告会で最終報告をしました。私の研究成果は査読をパスして2020年に Membrane Science and Research に掲載されました。

私は大学女性協会奨学金による助成と市川研究室の方々からの貴重な助言と技術的支援に感謝しています。日本から持ち帰った精神と文化を活かしつつ、私は Tun Hussein Onn University of Malaysia の上級講師として排水処理のために光触媒を濾過膜に結合させる研究を続けています。

### Dr. Ramu Shwetharani (インド)



大学女性協会からの2019年度奨学金によって、信州大学先鋭材料研究所(RISM)で光触媒の分野で著名な堂免一成教授と久富隆史准教授から研究指導を受けたことは私にとって本当に名誉なことでした。

奨学生としての日本での経験について、二つの重要なことがらがあります。第一に、信州大学の先生や職員様、研究仲間とのふれあいです。研究センターで私は温い歓迎を受け、私の滞在のために宿舎や移動手段や仕事の場所まで用意されていました。実験室や機器は最先端のもので、それを使いこなす技術を磨くことができました。

第二に日本の方々はとても親切で丁寧、相手を尊重し、すべての生活面で堅実と感じました。私は正規の6か月間、そしてパンデミックのために延長された3か月の滞在中、それに直に触れる経験をしたのです。コロナウイルスのために世界中が未曾有の被害を蒙っているなかで、私ができるだけ快適に滞在できるようにあらゆる手段を講じてくださったことに、今もただ感謝の気持ちでいっぱいです。

今、私はジャイナ大学とバンガロールのインド科学研究所研究員として、水素発生研究に関するプロジェクトに従事しており、信州大学での経験が、研究と実験技術のレベルアップに非常に役立っています。

### Khulkar Turdieva (ウズベキスタン)



私は大学女性協会の奨学生として、2016年9月から2017年3月まで、「異文化間コミュニケーションにおける日本とウズベキスタンの丁寧語に関する実際の比較研究」を筑波大学小野正樹教授の指導のもとで行いました。

2017年9月にウズベキスタンに帰国後すぐに、私はタシケント州立大学で講師兼博士課程研究者としてのキャリアを継続しました。2020年11月に、日本で行った研究に関連するテーマで博士学位を取得しました。小野教授とは現在も連絡を取っており、2021年に「アジアの学習者に教える際の日本語配慮表現」の調査に関する筑波大学でのシンポジウム、ウズベキスタン・イノベーション・センターでの会議など国際的イベントのチームに加わりました。

現在、私はタシケント州立大学の東洋語学科の上級講師を務めており、20世紀初頭のウズベキスタンの知識人とその移動について未知の領域を研究中です。

大学女性協会と筑波大学、小野正樹教授が与えてくださったチャンスと支援によって私の研究が成功に導かれたことに、深く感謝しています。そこから私は多くの刺激を頂き、ウズベキスタン語と日本語、その他のアジアの言語の発展のために貢献するよう努力しています。

## Lynn SUN、孫琳 (香港)



2017年の大学女性協会国際奨学生リンスンです。この奨学金の支援により、2017年9月20日から5か月間の日本での追跡フィールドワークを行い、「幸福の袋小路：中国と日本における中流階級女性の結婚に対する幸福追求に関する調査」と題する博士論文のデータを収集しました。早稲田大学ファーラー・グラシア教授の研究室の客員研究員として2015年から翌年まで行った調査の日本人対象者に対して、たくさんの追跡インタビューを行い、以前のフィールドワークで集めたデータの「欠落部分」を補うことに大変役立ちました。早稲田大学では毎週のゼミに参加することで、優れた見識に接し刺激を頂きました。また、私

をゲストスピーカーに招いて頂いた国際基督教大学では、約50人の学生さんと議論する機会を得ました。

これらのことはすべて、大学女性協会から国際奨学金の温かい支援があって初めて実現しました。博士課程学生としての経済的負担が軽減されたばかりか、大学女性協会の皆様から滞在中を通して温かいおもてなしを受けました。

2021年に私は香港中文大学から博士（人類学）の学位を授与され、現在この大学で、ジェンダー、親密な人間関係、幸福などのコースを教えています。私の博士論文を学術雑誌に掲載し、図書として刊行するための仕事もしています。

大学女性協会をはじめとする多くの方々が、私の進む道を支援してくださったのと同様に、一步一步着実に、研究を通して女性の幸福に貢献することをめざしています。

## オンラインで広がる調査・研究委員会の活動

調査・研究委員長 勝又幸子

調査・研究委員会は14ある JAUW 委員会の中で最も新しい委員会の一つで、2018年度の委員会発足から今年4年目を迎えました。2021年3月委員会として初めての報告書「外国にルーツのある住民と多文化共生の取組についての調査～保護者と子どもの教育問題をめぐって～」を刊行しました。（<http://www.jauw.org/aboutjauw/books/archives/202103chousakenkyu-report.pdf> よりダウンロードできます。）2020年度は全国から25名の参加をいただきオンラインで5回の委員会を行いました。委員会がオンラインになったことで全国各地から参加が可能になりました。年度当初はオンライン初心者だった人も、インターネットやパソコン環境を整備してオンライン会議に挑戦しました。今年度もオンラインで行いますが、講師を迎えて開催する勉強会については委員以外の方にも聴講いただけるようにする予定です。開催情報はホームページや支部長を通じてお知らせします。オンライン会議への参加方法についても個別に支援いたしますので、ぜひ挑戦してみてください。

調査・研究委員会は2018年度より JAUW が関心テーマとして掲げた「教育・ジェンダー・共生」を受け、教育と多文化共生という切り口で外国にルーツをもつ子どもたちの日本語教育に焦点を当てて学習してきました。先に刊行した報告書では公立中学校における外国にルーツのある保護者と生徒への高校進学指導について、全国の支部にご協力いただき調査した結果をまとめています。調査した全国38自治体のうち24自治体、全体の約6割が中学校における進路説明会に、日本語の理解が難しい生徒や保護者のために、通訳や多言語の資料などを準備していることがわかりました。また、必要とする外国語については日本に住む外国人の出身国の多様化によって多言語化傾向がみられました。2019年7月に「日本語教育の推進に関する法律（日本語教育推進法）」が成立し、それまで外国人が多い地域に偏っていた日本語教育の体制を全国津々浦々に整備していくことが自治体の責務となりました。しかし、2019年調査した自治体間には教育における支援体制に大きな差があり、多くの教育現場では日本語指導ができる教員の配置が進んでいないなど、推進法に掲げられた理想にはまだ遠いことがわかりました。そのような事情を踏まえて、報告書では政策提言として次の4点を掲げました。①日本語を教えることのできる支援員の小中学校への配置を進めること。②進学を含むキャリア相談と指導を充実すること。③すべての自治体に日本語教育コーディネーターの設置を達成すること。④ジェンダー視点にたった、保護者の支援を行うこと。

調査結果からも明らかだったこととしては、学校教育現場における日本語指導者の拡充が緊急の課題だということです。早急に日本語支援のための人材の確保が必要とのことで、報告書では小学校から英語教育を始めたときに採用した外国語指導助手（ALT）を参考にしながらも単独で日本語指導ができる日本語支援員の配置を提案しています。そして、ジェンダーの視点から、保護者の中でも、就労せず育児家事に専念している母親に、日本語を習得する機会が少ないことを問題として指摘しました。特に子どもの進路指導のためにも子どもと接する時間が長い母親に、日本語を習得し日本社会の慣習や制度を正しく理解してもらう必要があることを指摘しました。今年度は報告書で「残された課題」とした保護者への日本語教育支援について調べたり、進学のみならず将来日本社会で安定した生活ができるようキャリア支援の実態も調べたりしたいと考えています。そして全国セミナーでは、報告書に掲げた政策提言の背景やそこから期待できる効果について、委員会で検討したことを皆さんと共有し、全国に支部を擁する大学女性協会として、何ができるかを問い直していきたいと思えます。



去年と今年2年間で一単位とを感じる特別な時、国連第65回女性の地位委員会（CSW65）は、ほぼ全ての会議とイベントをヴァーチャルで開催し、2021年3月15日～26日の会期を、過去最大規模の NGO 関係に限っても2万7千人の参加者を集めて、盛況のうちに幕を閉じた。そのCSW65が未だ終わっていないように感じるのは、様々な組織が各所でCSW65を引き継ぐ催しを展開しているから、と思われる。3月29日～31日メキシコと6月30日～7月2日フランスで開催の Generation Equality Forum（GEF）（平等を目指す全ての世代のためのフォーラム）は、その代表的なもので、オンラインの便宜性から日本からも多くの若手の参加が見込まれている。

国内では、5月27日に120人を超える参加者でオンライン開催されたJAUWの報告会が、日本からのイベントを網羅し有意義なフォローアップとなった。まず、国連日本政府代表部と3つのNGO共催のサイドイベントは、優先テーマに合致したパネルディスカッションで、先日フランスの国家功労勲章シュバリエを受章された三浦まり上智大学教授（東京支部会員）の見事な采配により、日本の課題を的確に提示した。その報告書作成にあたり、JAUWとJAWWの支援を受け参加した田中優希長崎純心大学3年生は、日本語翻訳と表紙作成に若手のセンスを発揮した。また、日本からのパラレルイベントの一つとして、石塚浩美産業能率大学教授（神奈川支部会員）が主催した「人生百年時代の日本のジェンダー平等と女性のエンパワメント」には、JAUW支援の3人の若手（田中、オト、永鳥）が質問・コメントした。

このようなフォローの動きは、COVID-19パンデミックにより世界中で露わになった女性の貧困や女性への暴力の深刻さなど、ジェンダー平等に向けた目標との明らかな距離を、埋める努力の一環となり、近年のバックラッシュを跳ね返し、コロナ以前よりも良い状態への回復を図るものと期待される。CSWの熱気の維持に一役買っているWeb上の映像記録をも活かし、微力を尽くさなければならない。

コロナ禍における日本の中の世界～教育から未来をひらく～

国際ネットワーク委員長 牧島悠美子

3月8日の国際女性デーを前に、学校法人アジア学院校長の荒川朋子さんから、同学院とそこに学びに来ている留学生やボランティアの方々の生活についてのお話をオンラインで伺う機会を設けたところ、42名の参加があった。

荒川さんは「食といのち」を大切にするコミュニティでアジア・アフリカ各国からの留学生と共に自給自足の生活をしながら結婚・子育てをし、2015年4月に48歳の若さで同学院初の女性校長に就任された。あと2年で創立50周年を迎えるアジア学院。その運営状況は年間予算約1.3億、職員は20名。募集は広報を幅広く実施。但し応募は個人でなく、農村開発に取り組んでいる所属（送り出し）団体の推薦と、個人として3年以上の経験が必要。年齢は25歳～45歳位まで。性別、宗教は不問。この10年でアフリカからの応募が増え、7割を占める。英語での授業のため、英語圏からの応募が多く、人材育成の意識が高い。多様な宗教に囲まれて

いるが、宗教上のトラブルはない。皆が何でも自分で全てするサーバントリーダーシップの精神で生活している。学生は9か月（4月～12月）、海外からのボランティアなどは教会からの推薦、原則として1～2年。ボランティアは女性が多いが、海外から推薦されてくる学生は男性が多い。女性であれば受け入れるというと女性を推してくる。ロールモデルとしても女性校長は歓迎されている。

世界各地から集まる研修生。考え方の違う人々との切磋琢磨が多様性を受け入れ、培うのだろう。



共同体形成のため、全員が集まり話し合い

新企画ミニコンサートに関して

事業担当理事 藤谷文子

文化事業委員会として、今年度の企画の目玉は天満敦子さんを再びお迎えすることは決定していたのだが、さらに2回のミニコンサートも計画し開催予定となっていた。

当協会の会員でもある飯田寛子さんの紹介で好立地の六本木シンフォニーサロンで第1回目を6月23日伊藤名佳子さん（メゾソプラノ）で決定済だった。因みに旧財務委員会に属していた亡き羽山明子さんのお孫さんでもありお母さまの伊藤真理子さんはやはり会員である。名佳子さんは東京芸術大学大学院卒業パリのエコールノルマルに留学経験もある前途有望な新人である。ホールは40

名収容で素敵な空間での豊かなひと時を！と企画していたのだが第3回緊急事態宣言発出に伴い目下ホールは無観客でとのこと、残念ながらやはり中止の決断を下すこととなった。今年度中（来年3月まで）の開催を目指して努力するつもりである。

なお第2回目はすでに12月22日にバリトン歌手の東京芸術大学出身の中堅の加来徹氏を招いてクリスマスミニコンサートを企画済である。その頃までにはコロナも収まることを願うばかりである。

サイドイベント “Women Leaders in Politics :  
Better Society, Strong Democracy” から得たもの

2021年のCSW65では、JAWW（日本女性監視機構）、国連NGO国内女性委員会、国際婦人年連絡会のNGO3団体が主催したサイドイベントでモデレーターを仰せ付き、企画する機会を頂戴した。日本の女性議員や閣僚・首長が少ない現実を踏まえ、タイトルはずばり「女性リーダーが必要だ」というものになった。副題の「Better Society, Strong Democracy」には、女性リーダーが増えることで、社会はより良くなり、民主主義が強化されるという希望が込められている。

冒頭で九川珠代男女共同参画担当大臣よりビデオ・メッセージを頂戴し、コロナ禍で顕在化した「女性不況」や「影のパンデミック」（女性への暴力の増加）への日本政府の対応が紹介された。国・地方で困窮した女性への支援を積極的に行っているのが女性議員であるため、女性リーダーの必要性が一層実感されるのが、コロナ禍の状況だといえるだろう。

パネル・ディスカッションでは、ズライダ・カマルディン氏（マレーシア住居・地方政府担当大臣）、ゴルリス・ギヤラマン氏（ニュージーランド国会議員）、ゼイナ・ヒラル氏（IPU\*ジェンダー・パートナーシップ・プログラム担当）をゲスト・スピーカーに迎え議論を行なった。

\*列国議会同盟

興味深いことに、女性リーダーのケア役割について対照的な見方が提示された。カマルディン大臣は男女でリーダーシップは異なるとし、女性の視点を政策に反映させる重要性を訴えた。他方、ギヤラマン氏は女性は男性よりもケアに対して敏感であるとはいえないとし、女性らしさのステレオタイプに由来する道徳的特質だけを根拠に女性の政治参画が認められるのであれば、女性リーダーの役割は矮小化され、ステレオタイプに合致しない言動が非難されると懸念した。また、難民出身で有色女性であることからくるハラスメントの経験を語り、女性の中の多様なマイノリティ性に配慮する必要性を訴えた。

ヒラル氏はIPUが実施した政治分野における女性への暴力調査の結果を紹介し、ハラスメント対策が急務であること、またIPUの「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に基づく監査方法を紹介した。

政治分野における男女共同参画推進法は今国会にて改正され、ハラスメント対策や環境整備が強化されることになった。改正案を準備した政治分野における女性の参画と活躍推進議連では、IPUの監査を提言することを議決し、国会内での検討が始まっている。

今サイドイベントを通じて、多様な女性リーダーを増やす意義と、それに向けた障壁撤廃の具体的道筋について共有できたといえる。

（上智大学教授／パリテ・アカデミー共同代表）



中村道子先生を  
悼む



JAUW 元会長（1978～79）  
2021年2月16日没 享年102歳



元会長 青木怜子

中村道子先生のご訃報に接して只々寂しく、一つの時代が終った感を深くしています。晩年の先生は外出を控えられ、公けの集まりでお見かけすることはなくなりましたが、メールを差し上げれば打てば響くお返事があり、いつもと変わらぬ道子先生にお会いしているようでした。

「どうしてかしら、あなたのメール。今ちょっと前に確かに見たのにどっかに行っちゃって。」さりとて私が探しに伺えるわけでもなしと思いつつ、何故かメールでは聞こえない筈の先生のお声がリアルに響き、目を見た筈の活字は何も見えてこないのです。あの弾んだ明るいお声や闊達なお話しぶりが私の耳から離れないからかもしれません。

ある日、ヌエックのロビーで高野フミ先生・道子先生・中村ミチ先生とご一緒していたことがありました。その時、道子先生がまるで凄いいことでも発見したかのように「あら、この四人！偶然だけどもみんな帰国子女じゃない？」とおっしゃるのです。私は確かに五歳でアメリカから帰国しましたが学校に行っていた訳でもなく、自分が帰国子女だという認識はありませんでした。

それでも別の機会に、道子先生がアメリカ帰りの体験談を語って下さったことがあります。それは著名な料理研究家のご母堂が自著でも書いておられるのですが、娘たちの交わす会話がお母様には一向に通じないというのです。例えば二人が「日本ってホントに嫌ねえ、カスノミスが多くて」と話すので、お母様が「何のこと？」と尋ねると、娘たちは平然と「蚊と蚤よ」と答えるのです。複数形の蚊と蚤とはこれぞ帰国子女の発想でしかあり得ません。

道子先生は1940年に現在の東京女子大学を卒業され、戦後'59年にニューヨーク大学大学院に留学されました。その後、成城短期大学で教鞭をとられ、退任後は調布学園女子短期大学で学長を務められるなど、いわば教育畑一筋を歩まれた方でした。それでも'46年に設立された大学女性協会に当初から関わられ、NGO草分けの分野でも活躍されています。

'79年には市川房枝氏の推薦で第34・35回国連総会に日本政府代表代理として出席され、「女性に対するあらゆる差別撤廃条約」の採決に直接関わるなど、目覚ましい活躍をされました。その折に先生が丹念に記された膨大なメモは、その後も長く外務省内で手引き書として活用されたと聞いています。先生のご逝去で一つの時代が終わったとはいえ、ご健在であった日のイメージを私は今なおお拭きできずにいます。

2021年度全国セミナーの開催について

テーマ「教育・ジェンダー・共生  
—コロナ後の共生社会を支える教育—」

日時：2021年11月14日（日）10：00～16：30  
会場：エッサム神田ホール1号館401大会議室  
開催方法：対面とオンラインの併用（予定）  
参加費：1000円（対面・Zoomとも）、学生無料  
申込方法：Google フォーム、E-mail、Fax 等で受け付けます。  
e-mail：jauw@jauw.org

締め切り：2021年11月7日（日）23：59  
内容：コロナ禍の影響により大きく変わろうとしている今後の社会を担う人々を育てるには、どのような教育が推し進められていくべきでしょうか。昨年のシンポジウムの流れを踏まえ、石川県立大学長 西澤直子さんの基調講演やほか3名のご登壇者からの声を頂き、私たちの今後の行動の指針とします。

\*詳細は同封の案内チラシをご覧ください。

大学女性協会80周年記念募金パトリア寄付者ご芳名

期間：2021年4月30日～6月24日

人数：100名、寄付金額：1,020,000円

(札幌支部) 山崎美喜子 (仙台支部) 谷地森涼子 (新潟支部) 高津恭子 田代信子 田中和子 長谷川かよ子 (茨城支部) 安藤隆子 長田満江 梶塚幸子 (長野支部) 徳田節子 三田コト 森かをる (東京支部) 阿部幸子 安東桂子 岩村道子 海老根静江 大島杏子 香川せつ子 加納孝代 窪田憲子 向後紀代美 後藤祥子 駒木三枝子 今野美智子 坂上栄美子 佐々木澄子 佐々木洋子 白井典子 西田節子 野瀬久美子 端本和子 長谷川瑞穂 平川敦子 福田文子 藤谷文子 藤村久美子 堀口裕子 松村美枝子 森川淳子 山下泰子 吉村光代 鷺崎千春 (神奈川支部) 鷺見八重子 房野桂 松比良節子 丸山若重 (静岡支部) 山下いづみ (愛知支部) 稲葉みどり 賀集イレーネ 伴紀子 (金沢支部) 勝木満子 (福井支部) 高橋博子 (京都支部) 伊藤洋子 稲葉カヨ 久保宜子 中村泰子 松尾景子 松田栄子 (奈良支部) 奥村晶子 児島捷子 志垣瞳 関川千尋 津田直子 中道貞子 橋本慶子 和田アイ子 (大阪支部) 小浦方新子 小阪田泰子 (神戸支部) 片岡聰子 寺本郁子 東條喜代子 中村八千代 平井典子 山本道子 (岡山支部) 岡崎優子 高田武子 真邊和美 (広島支部) 岡田恵子 児玉明子 船橋喜恵 山手万知子 吉村幸子 (大分支部) 内田芳子 濱田彩美 (熊本支部) 高藪美代 武宮公子 (福岡支部) 加藤仁美 萩尾憲子 榎谷紀子 和栗方子 (長崎支部) 梅田和子 河村紀美子 鈴木千鶴子 関きみ子 (賛助会員) 磯部正昭 岩永正人 小笠原今子 高橋政春 武田裕子 村上太郎 (敬称略・支部別 五十音順)

天満敦子さん、ふたたび 文化事業委員会

天満敦子 無伴奏ヴァイオリン～希望～

日時：10月21日（木）午後2時30分開演  
会場：ハクジュホール（定員300人、150席予定）  
曲目：祈り（プロッコ）、子守歌（フォーレ）、望郷のバラード（ボルムベスタ）、ジュピター（ホルスト）他  
チケット：4,000円（学生2,000円）7月先行発売予定  
※天満さんの「旦那さん」ストラディバリウス（286歳）のたぐいまれな音色を毎年聴きたいとのご要望に応じて「天満の白寿シリーズ」案も検討したいと考えています！

新入会員 理事会承認 2021年3月～6月

仙台支部 平井みどり 仙台支部 岩倉 敦子 東京支部 安東 桂子  
東京支部 前村 治代 神奈川支部 菊地 聖子 福岡支部 萩尾 憲子

一般社団法人 大学女性協会 2021年度国内奨学生募集要項

- I 応募資格
- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
  - 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
  - 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- \*備考
- ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
  - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再応募することはできない。
  - ・在籍年数に休学期間は含まず、2022年2月末日に、在籍であること。
  - ・秋入学の場合は2021年10月末日時点で在籍1年以上であること。
  - ・博士課程後期1年、6年制博士課程1年在籍者は博士課程前期（修士）修了と同じ扱いとし、資格要件を満たすものとする。
  - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
  - ・経済的理由は、一切問わない。
- II 支給額および募集人数
- 一般奨学生 大学院生20万円 6名
  - 社会福祉奨学生 学部生10万円 大学院生20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
  - 安井医学奨学生 大学院生30万円 1名
- \*備考
- ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
  - ・奨学金は1回限りである。
- III 提出書類（下記1）、（2）、（3）、（4）、（6）はホームページからダウンロードして使用のこと。6月中旬掲載
- 履歴書・自己紹介書（写真貼付）
  - 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書  
・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。  
・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
  - 研究・勉学の内容について  
・大学院生は様式A  
・学部生は様式B
  - 研究業績リストおよび社会的活動  
・大学院生のみ
  - 学業成績証明書  
・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
  - 身体障害状況報告書と身体障害者手帳の写し  
・社会福祉奨学生のみ
- 連絡用応募者情報  
応募者全員は「連絡用応募者情報」に記載のURL/QRコードにアクセスし、枠内に必要な情報を記入し、「送信」ボタンで送信すること（印刷して提出は不要）。
- IV 応募方法および締切り  
応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。大学は一括して2021年8月31日（火）（必着）までに、当協会支部が設置されている都道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。
- V 結果通知  
選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2021年11月末日までに電子メールで通知する。
- VI その他の留意事項
- 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2023年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。提出のない場合は奨学金の返還を求められることがある。
  - 国内奨学金贈呈式は2022年1月に東京において開催の予定。（詳細は後日通知する）
  - 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。

理事会から

- ▶ 二度にわたる葉書による「議決権行使書」の提出へのご協力に感謝いたします。
- ▶ 第9回Jカフェは6月27日、鈴木千鶴子理事のカズオ・イングロについての講演を開催しました。
- ▶ 新事務員紹介 4月から坂本和子さん（写真）が、月～金の毎日勤務しています。
- ▶ 事務所の夏季休業期間 8月12日（木）～8月18日（水）



一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101

電話 03-3358-2882

FAX 03-3358-2889

https://www.jauw.org

E-mail: jauw@jauw.org

発行人 加納 孝代

編集責任者 穂田 信子

発行日 2021年7月20日